

山中湖畔からかなりのぼった丘の上、通行人のまったくいない道沿いにある自宅を改造、喫茶店をオープンして12年目になる。毎朝10時半から夕暮れまでが営業時間で、水、木曜日が定休日。それに寒冷地のため、1月4日から3月のお彼岸までは、冬眠という長い定休日があるので、実質10ヶ月弱の営業期間。よくもまあやっていますねと驚かれる。いや、じっさい、よくつづけてこられた。自分でも、12年目にはいるのが信じられないほど、夢中で店をはって来た。この12年間に臨時休業したのは、大型台風と身内の慶弔、突発事項にせかされた数日だけで、あとはちゃんと真面目に営業している。

連休などの観光シーズンは、夫とふたりで狭い店内とテラスを駆け回るし、シーズンオフになれば読書をしながら、静かにすわって一日を過ごす。自宅が喫茶店というのは、おつなものだ。BGMもコーヒーも、雰囲気もそろっている。ただ、営業中はお客さんがいてもいなくても、店の者が心からリラックスするわけにはいかない。

火曜日の夕方に閉店の看板を出すとき、わたしは5日間の緊張から解きほぐされて、やっとほっとした気分になる。明日は待ちに待った定休日、さあ、どうやって有意義に過ごそうか？ 時間よ、どうかゆっくりすすんでおくれと言いながら、key coffee の行灯を店の中に入れる。そう、いよいよこのスペースが自分の居場所になる、至福の瞬間。(樋口範子)